

社会調査士資格 役立つ場面紹介

文化芸大で座談会

社会で起こっている事象を正確にとらえ、分析する「社会調査士」の資格について知ってもらおうと、浜松市中央区の静岡文化芸術

大は3日、資格を取得している卒業生を招いた座談会を同大で開いた。本紙記者やテレビ局記者らが登壇し、資格が取材現場や地域交流で役立つ場面などを在学学生たちに伝えた。

文化政策学科の船戸修一教授による企画。船戸ゼミに所属する学生たちは例年、同市浜名区引佐町の久留女木地区を訪れ、棚田の

耕作や新たな地域振興策の立案をしている。社会調査士は、一般社団法人社会調査協会（東京都）が付与する資格。地域での現地調査をする機会も多く、船戸ゼミ卒業生には社会調査士の取得者が多いという。

登壇した中日新聞伊賀支局（三重県伊賀市）の鈴木義人記者（23）は、能登半島地震取材で訪れた石川県輪島市の経験を語った。現地での実態を伝える記事では「へばりついた海藻」「強烈な磯のにおい」などと紹介。「自分の五感を使って伝えることが大事」と強調した。

文化政策学科2年の細井智美さん（19）は「卒業後、

資格と社会がどのようなつながっているかを知ることができて良かった」と話した。（山本晃暉）



取材時に社会調査士の資格が役立つ経験などを語る鈴木義人記者（左から2人目）＝浜松市中央区の静岡文化芸術大で